

厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）  
令和2年度～令和4年度 総合研究報告書  
分担研究報告書

死体腎移植における選択肢提示の諸問題に関する研究

研究分担者 加藤 庸子 藤田医科大学ばんだね病院 脳神経外科 教授  
研究協力者 小野 元 聖マリアンナ医科大学医学部 脳神経外科学 准教授

研究要旨:

研究期間において covid19 の影響は各地域・医療機関の医療対応に影響を与えた。具体的には救急医療現場での臓器提供自体の減少が感染症による提供候補者（ポテンシャルドナー）低下というよりも、未知の感染症への医療機関対応が主治医の選択肢提示や、家族説明において通常以上に低下した原因と考えられる。つまり、医療機関の機能変更やシフト変更は医療現場の終末期対応さえ変化させる可能性が示された。つまり臓器提供では心停止後臓器提供を含めて、主治医らが医療行為の中で通常医療行為と同じように選択肢を提示し、本人医師の確認や家族の希望を進める事ができることが必須であり、そのための研究を進めた。

A. 研究目的

臓器提供への負担軽減は必要であるが、心停止後提供においても臓器提供ではインセンティブや脳死判定時間や事務的処理等最も大きな課題は入院後の家族への説明や承諾に至るまでの過程への対応にある。本研究では小児から成人まで含めた臓器提供に対する選択肢提示と対応についての課題解決を目的とする。

B. 研究方法

臓器提供可能施設における臓器提供への選択肢提示と家族希望を踏まえた終末期対応の現状を講演会の形で検証した。

（倫理面への配慮）

個人情報の扱いについては十分考慮しPCにおける情報はPWによるロックをかけ、書類については鍵付きロッカーでの管理を行うなどの対応により厳重に管理する。

C. 研究結果

令和2年から年間3回から4回にて講演会を継続した。全国から講演会の目的に沿って適任となる専門家による講演を実施した。適切な臓器提供推進への方向性を見出した。

D. 考察

ポテンシャルドナーへの対応は各医療機関においても差があり院内体制整備に対する対応の必要性が再認識され地域での取り組みも重要であるが、慎重とされる臓器提供における医療機関間の搬送は今後検討される必要がある。選択肢提示は医師等がすることになっており、もしも搬送が容認されればより提示を必要とされる。小児臓器提供でも同様のことが考えられ、家族支援、本人意思の尊重をより医療者は学習し本人のために選択肢を提示する必要がある。

E. 結論

各医療機関において臓器提供への対応はそれぞれである。組織提供も臓器提供と同様に家族への選択肢提示を積極的に行う必要がある。課題の中心は国民が通常医療と同じように、臓器提供を含めた終末期の選択肢提示から、臓器提供に限らない選択を医療者と共に進めることが、より重要であると思われる。

F. 研究発表

1. 論文発表

1. 終末期における臓器提供意思を確認するための選択肢提示（オプション提示）方法の考察. 小野元, 田中雄一郎, 加藤庸子.  
32 巻 2 号 P.46-51, 2020年. 脳死・脳蘇

生学会雑誌

2. 小野元. 臓器提供の現状と課題. 腎と透析: 91(6), 1033-1037, 2021.
3. 小野元, 安心院康彦, 渥美生弘, 稲田慎治, 國島広之, 嶋津岳士, 横堀将司, 吉川美喜子, 横田裕行, 江川裕人, 水谷敦史, 大宮かおり, 小川直子, 中村晴美. 臓器提供経験施設への実態調査研究に基づく新たな体制構築に関する提言(Ver.1). 日本救急医学会雑誌, 2022;33:436-463.
4. 小野元, 吉田泰之, 高砂浩史, 田中雄一郎, 村田英俊, 加藤庸子. 日本における心停止後臓器提供の将来像. 日本脳死・脳蘇生学会誌, 2022;34(2):70-75
5. 小野元, 高砂浩史, 田中雄一郎. 12年前の児心停止後臓器提供の終末期対応の1例. 日本脳死・脳蘇生学会誌, 2022;第33回日本脳死・脳蘇生学会 総会・学術集会記念特集号:37-38.2022

2. 学会発表

1. 心停止下臓器提供の終末期医療対応を含めた負担抽出小野元, 田中雄一郎, 加藤庸子, 横田裕行. 第48回日本救急医学会総会・学術集会2020年11月
2. 小野元、加藤庸子. コロナ禍における臓器提供施設の新たな体制構築に関する研究. 第49回日本救急医学会総会・学術集会 2021年10月
3. 小野元、田中雄一郎、加藤庸子. 救急医療現場の終末期医療と心停止後臓器提供への対応. 日本脳死脳蘇生学会 2022年6月

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得  
特になし
2. 実用新案登録  
特になし
3. その他  
特になし